

イスト

Akita Prefectural University

Vol.6

10月25日(日)
イオンモール秋田
において県大フェア
を開催。県大の竿燈
会が実技を披露し、
館内に喝采が響いた。

県大が
魅力的なワケ。

卒業生×在校生・インタビュー

03-04
INTERVIEW

05-06 研究者紹介

FILE 01 岡安 光博

FILE 03 石川 匡子

FILE 02 戸花 照雄

FILE 04 吉田 康德

07 NEWS&TOPICS

02 学生自主研究

07 INFORMATION

01

開学10周年記念講演会・同式典及び祝賀会を開催

本学の開学10周年記念講演会、同式典及び祝賀会が6月5日、秋田市内のホテルで開催され、小林俊一学長が開学から10年の歩みを振り返り「次の10年は県立大が開学から10年の歩みを振り返り「次の10年は県立大が真価を発揮する時。より良い大学を築きたい」とあいさつしました。また、佐竹敏久秋田県知事、銭谷眞美文部科学事務次官(秋田市出身)などからも祝辞があり、銭谷事務次官は「公立大学法人制度を活用し、知的創造性あふれる教育研究活動の成果を地域社会に還元して、地域の知的・文化的拠点として個性の輝く大学へ発展することを願っている」とあいさつしました。式典に先立って行われた記念講演会では「秋田の未来」と題して、元国連事務次長の明石康氏に講演していただきました。



全学

産学連携で純米吟醸酒「究(きわむ)」を開発

今年5月、本学と酒造会社「新政酒造」(秋田市)が共同開発した酵母を使って純米吟醸酒「究(きわむ)」を完成、発売しました。「究(きわむ)」は生物資源科学部の岩野君夫教授(醸造学講座)のもと、清酒の味に関わるアミノ酸代謝産物の少ない酵母を、同講座の学生の味覚を基準に優良株を選抜してつくりました。酵母以外の原料も秋田県産にこだわってつくり、完成したお酒は好評で、今年発売分はすでに完売し、次の発売は来年春を予定しています。名称は大学内から公募し、今年で開学10周年を迎える大学の研究の集大成を意味する名称として選ばれました。



全学

竿燈祭り妙技会で県大竿燈会が2年連続準優勝

秋田県立大学竿燈会は、第63回竿燈妙技会(8月4~6日)大若団体規定演技において、2年連続準優勝に輝きました。また、囃子方においても3位入賞を果たす大健闘をしました。決勝戦当日は好天に恵まれ、大勢の観客が見守る中、堂々たる演技を披露した県大Aチームは順当に勝ち上がり、決勝は昨年と同じチームとの戦いで、惜しくも準優勝となりました。竿燈会会長の坂田基さん(生物環境科学科3年)は「決勝で演技をしたのは5人だったけど、県大竿燈会全員で挑んだ結果だと思う。来年も会のみんなが一丸となって、目標高く頑張りたい」と抱負をかたつけてくれました。

03



秋田キャンパス

弓道部 東北弓道大会にて個人戦優勝と4位獲得

県立大学弓道部(砂弓会)は6月14日に秋田市で開催された、第62回東北弓道大会において、佐藤綾さん(応用生物科学科3年)が女子個人戦優勝、横山咲さん(生物生産科学科4年)が同4位という成績を修めました。砂弓会は日頃から学外の道場まで行ったり、学内の仮設の盛り土に的を立てて練習をおこなうなど、決して恵まれた環境ではないのですが、試合前には毎日練習をしてつかみ取った栄冠です。女子個人戦優勝をした佐藤さんは「優勝したときは信じられなかった。先輩のアドバイス通りにできたと思う。来年は団体戦も頑張りたい」と目標をかたつけてくれました。また、横山さんは県の国体強化指定選手に選ばれています。

秋田キャンパス



04

本学大学院生が日本学術振興会特別研究員に採用!

大学院システム科学技術研究科の作田康裕さん(博士後期課程2年・右)と佐藤あゆみさん(同1年・左)が平成21年度「日本学術振興会特別研究員」に採用されました。この特別研究員制度は、優れた若手研究者に研究に専念する機会を与え、将来を担う研究者を養成することを目的としたものです。作田さんはコンピューター・シミュレーションによる液体中のマイクロ粒子の挙動と内部構造の解明に関する研究を、佐藤さんはコンクリート界面のひび割れのメカニズムや力学特性に関する研究を行っています。国立私立大学の大規模校からの採用者が多いなか、2人は厳しい審査を乗り越えて見事に採用されました。

本荘キャンパス



06

05

大潟キャンパス

第1回全国農業系学生フォーラムを開催

9月4日から4日間の日程で「第1回全国農業系学生フォーラム」と「大学間交流」が行われました。本学の学生7名で組織されたチームが企画・運営の主体となり、全国6大学から13名の農業を学ぶ学生が参加しました。今回が1回目となる農業系学生フォーラムでは限界集落における農業経営の問題点や日本の食料自給率に関する意見が交わされ、学生の考えを社会に発信する場となりました。参加した学生は「農業やその他の問題に対し、より多角的な視点を持てるようになった。もっと様々な問題に意欲的に取り組んでいきたい」と感想をかたりました。



ものづくりサークルS.E.I.M. NHK大学ロボコンに初出場!

ものづくりサークル「S.E.I.M.(セイム)」が、6月7日に東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「NHK大学ロボコン2009」に、本学のチームとして初出場を果たしました。結果は残念ながら予選リーグ敗退(2敗)となりましたが、全国56大学77チームの中から厳しい書類選考とビデオ選考を通過して20チームに残り、東北・北海道の大学としても唯一の本戦出場を勝ち取ったことは、学生たちにとって大きな自信になりました。



07

本荘キャンパス

佐々木准教授が「林業科学技術振興賞(研究奨励賞)」を受賞!

木材高度加工研究所の佐々木貴信准教授が「第48回林業科学技術振興賞(研究奨励賞)」を受賞しました。この賞は、林業・林産業の科学研究分野において、いくつかの成果を挙げ、将来的にさらに林業・林産業の振興発展に貢献するであろう可能性を秘めた若手研究者に贈られる賞です。佐々木准教授は、地域資源である秋田スギ材の利用拡大を目的として土木分野での木材利用に一貫して取り組み、その成果が秋田県内をはじめ日本各地の治山林道事業に実用化されるとともに、保守点検手法の開発など維持管理のためのマニュアル整備を進めてきたことなどが高く評価されました。



木材高度加工研究所

08



研究グループ名

自動お好み焼き製造装置の開発チーム

研究名

自動お好み焼き製造装置の開発



天野 拓也

★静岡県出身
★藤枝明誠高校

先生や先輩と積極的にコミュニケーションを取る機会が増え、研究以外の面でも勉強になりました。

貝沼 俊哉

★愛知県出身
★愛知県立熱田高校

パーツ一つを作るにも、緻密に計画すること、意見を出し合うことが大切だと実感できました。

高橋 慧

★岩手県出身
★岩手県立盛岡北高校

自分たちでイメージしたものを具体的な形に仕上げていくことが非常に楽しい。

竹内 耕平

★岩手県出身
★岩手県立大船渡高校

ものづくりを通して、計画・設計・製作といった全体を見渡すことの大切さを学ぶことができました。

畠山 和哉

★岩手県出身
★岩手県立盛岡北高校

多くの失敗もりましたが、失敗を次のステップへつなげていくことややりがいや達成感がありました。

Q 研究の目的を教えてください。

A “人の手間を省力化し、暮らしに役立つ”をコンセプトとした自動機械を製作したいと思い、「自動お好み焼き製造機」の製作に取り組みました。調理作業を自動で行う機器を製作を通して、日常生活を支援するための機器に求められる要素と機能を理解し、開発に必要な知識を習得することを目的としました。

Q 研究の内容について教えてください。

A 「生地をプレートに流し込む」「プレート2枚で挟んで焼く」「プレートから皿に盛り付ける」の3つの動作を自動化し、さらに時間差で4枚を順次焼き上げる構造を目指しました。そのために、ホットプレートの加工などのハード面や、マイコンによる動作制御などのソフト面の設計・開発を行いました。

Q 今回の研究に取り組むことになったきっかけは？

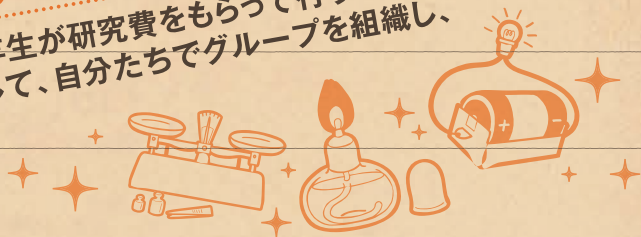
A つくるならば“人に役立つ”、“見て楽しめる”ロボットにしたいと思っていました。一人暮らしをして自炊が大変だと感じて「調理ロボット」を思いつき、手軽でありながら複数の工程が必要な「お好み焼き」を選びました。

学生自主研究

Students' Voluntary Research Projects

アクティブに挑戦する学生たちを紹介。

学生自主研究は1、2年生が研究費をもらって行うことができる制度。興味深いテーマに対して、自分たちでグループを組織し、計画を立て実施。



Report.



秋田キャンパス

生物資源科学部 応用生物科学科

研究グループ名

乳酸きんにくん

研究名

酸敗しにくいヨーグルトを科学する!!

Q 研究の目的を教えてください。

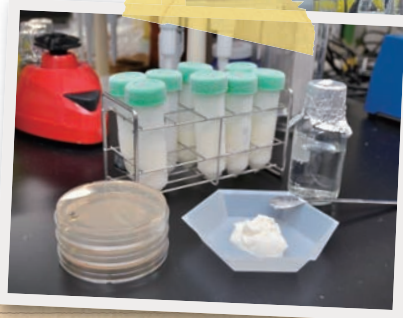
A ヨーグルトは開封後に日をおくと、酸味や匂いが強くなったり、変色したりして食べられなくなることがあります。私たちの研究はその原因を解明するとともに、ヨーグルトの長期保存方法やおいしさを保つ方法を見つけることを目的としています。

Q 研究の内容について教えてください。

A まず、ヨーグルトの基本的な知識を整理しました。例えば、製法や乳酸菌の種類について調べました。次に、ヨーグルトが食べられなくなる原因を解明するために、日にちをあけてヨーグルトを開封し、サンプルとして分けとったものを液体クロマトグラフィー等の機器分析により、何が作用してそうなったのかを調べています。今後は、その分析結果を基に様々なヨーグルトの保存方法を試し、最もよいヨーグルトの保存方法を探索します。

Q 学生自主研究の良いところを教えてください。

A 1年生のうちから自分の興味のあることについて学ぶことができ、専門の先生にも教えてもらえるところです。研究室には親切で気さくな方が多く、取り組み前に抱いていた「近寄りづらい」イメージを改めることができました。また、研究室で実験させてもらうので、研究する立場になった時のイメージができ、これからの参考になっています。



中山 愛織

★岩手県出身
★岩手県立高田高校

自主研究のための時間の確保が大変ですが、自主研究でやった実験が授業でもいかされる事もあるので、自主研究は自分の成長につながると思います。

南澤 彩夏

★神奈川県出身
★神奈川県立平塚江南高校

初めはヨーグルトについての興味で自主研究をはじめましたが、乳酸菌や他の微生物のことについても興味を持つようになりました。実験で集めたサンプルを分析するためには正確な作業が必要だと実感しました。

システム科学技術学部 建築環境システム学科卒

Chieko Kosaka

卒業生

小坂 千絵子 ことさか・ちえこ

勤務先: 株式会社大栄木工 (能代市)

★出身県: 秋田県 ★出身高校: 秋田県立大館桂高校 ★卒業年: 平成17年3月 (3期生)



株式会社大栄木工 (能代市)

創業60年の木製ドア・建具の専門メーカー。20分間と60分間の耐熱試験をパスした木製防火戸、和風の障子や襖、板戸や唐戸などの製造・取付で、政府施設・高級ホテル・神社仏閣から個人の住宅まで手がけている。

東京ディズニーシー ホテルミラコスタに納めた大栄木工のドア作品 (左は、県立大出身後輩の戸嶋恵子さん)

凝った意匠の建具図案に出会うたび、
どう実現させるか考えるのが楽しい。

Q 今の仕事に就くことになったきっかけを教えてください。

A 県内で木材関係の仕事に携わりたいと思っていました。就職活動でこの会社を知り、実際に訪問をして仕事の内容を聞くうちに、ぜひここで働いてみたいと思うようになりました。

Q 現在、ご担当されている業務はどのようなものですか。

A 設計段階の仕事を担当しています。設計図を元にCADで建具の製作図をおこし、お客様と打合せのうえ細かい意匠を決定、その製作図を製造部門へ引き継ぎます。

Q 現在の仕事は大学で身につけたことが役に立っていますか。

A パソコンやCADの使い方はもちろん、木材に関する知識、それに神社仏閣の物件では建築史の授業内容が役立っています。

Q 仕事で面白いところ、大変なところを教えてください。

A 凝った意匠や難しい内容の建具図案に出会うたびに、その建具をどう実現させるかを考えるのが楽しいですね。また、規格品ではなくオーダーを受けての製造なので、新しい物件に携われる機会が多いことも嬉しいです。

Q 休日の過ごし方や、趣味を教えてください。

A ふだんはドライブや読書なのですが、長い休暇のときは寺や神社を巡ります。その際には、どんな建具があるかも見て勉強しています。

Q 県大での一番の思い出を教えてください。

A よく思い出すのは、CAD室や研究室に夜遅くまで残っていて作業していたことですね。集中して作業しているうちに、何時間も経っていたことがよくありました。



★システム科学技術学部★ Systems Science and Technology

Nuki Watanabe

在校生

システム科学技術学部 機械知能システム学科

渡辺 裕樹 わたなべ・ゆうき

★出身県: 秋田県 ★出身高校: 秋田県立西目高校
★学科・学年: 機械知能システム学科 3年



三輪車「こまっち一号」とドライバーのこまち娘

※「三輪車12時間耐久レース」は、7月26日にFNS26時間テレビの番組内で行われたイベントで、秋田テレビチームの三輪車の設計を県立大学の学生が手がけました。設計を県立大学が大会唯一の全員女性チームドライバー4名が大会唯一の全員女性チームでしたが、29チーム中22位と無事完走。

Q 印象に残っている研究、授業等は?

A 2年生の時に参加した学生自主研究活動で、5人のチームでライトレースロボットの高速化に関する研究をやったことが印象に残っています。そこでは自分たちで研究全体の計画を立て、それに沿って製作・実験しました。この経験によって、ものづくりの知識と自信を得ることができました。

Q サークル活動はしていますか?活動の中で楽しいことは?

A ものづくりサークルS.E.I.M.(セイム)で活動しています。今年は、知能ロボットコンテスト、WEM(電気自動車)、大学ロボコン、三輪車レースのプロジェクトに参加しました。複数のプロジェクトを並行して進めることもあり、スケジュールは多忙ですが、やりがいがあります。

Q 「FNS 27局対抗!三輪車12時間耐久レース」*に参加したときのエピソードを教えてください。

A 試作も含めて製作した三輪車は、2か月間で3台。「乗り心地が良いとは何か?」をメンバーと議論し続け、それは「重心の安定性」にあることを突き止めました。そこで問題になったのは「体重」と「体格」。ドライバーが女性だけに聞くに聞けず、大いに悩みました(笑)。結局女性っぽい体格のメンバーを参考に設計しましたが、実際にドライバーには大変喜んでいただきました。悩んだことも今では笑い話ですが、真剣さを最後まで持ち続けたという点で、これまでにない経験ができました。製作に協力してくださった皆さまに深く感謝しています。

Q 将来の目標を教えてください。

A 小さなことを積み上げて、将来的につなげたいと思っています。特に秋田で生まれ育ったので、秋田のためになるようなことを探していきたいです。まずは卒業研究にしっかり取り組むこと。これが今の目標です。

Q 将来を考えている後輩へ、メッセージやアドバイスをお願いします。

A 時間のあるうちに、いろいろな経験をしてください。経験の幅と深さがそのまま自信につながります。大学進学を考えているなら、自主的に動くということを常に考えてください。大学では求めなければ与えられません。常に新しいことに興味を持ち、自ら動く姿勢が問われます。

経験の幅と深さがそのまま自信につながる。
時間のあるうちに、いろいろな経験を。

施設紹介

陸上競技場 (サッカー場)

…… 秋田キャンパス ……

充実設備をそなえた
公認規格競技場

秋田県立大学では地域貢献活動の一環として、大学施設の貸し出しを行っています。その中の一つ、陸上競技場(サッカー場)をご紹介します。

陸上競技場は1周400m全8レーンの全天候舗装トラックがあり、インフィールドは全面芝生でサッカーなどを行うことができます。アウトフィールドには跳躍競技を行う直線助走路と着地場所である砂場が設置されています。近隣の学校などが陸上部などの練習場所として使用しています。



使用対象者

団体のみ

※個人への貸し出しは行っていません。

使用料

日額8,000円

※時間割での貸し出しも可能。

※使用者が本学規程に定められた団体等であった場合、使用料の減免が適用される場合があります。

申込みについて

利用日の7日前までに大学へ申込みをしてください。

※ただし、大学の行事などがある場合やその他大学が不適当と判断した時は、使用を許可しない場合があります。

問い合わせは
秋田県立大学
秋田キャンパス
総務・施設チームまで。



S.E.I.M.と自動車部が共同で製作

生物資源科学部 応用生物科学科

Satoshi Sato

卒業生

佐藤 哲 さとう・さとし

勤務先：株式会社秋田県分析化学センター（秋田市）

★出身県：秋田県 ★出身高校：秋田県立増田高校 ★卒業年：平成19年3月（5期生）

大学で学んだ科学の知識を生かして、秋田の環境保全に貢献したい。



Q 今の仕事に就くことになったきっかけを教えてください。

A 大学で学んだ科学の知識を生かせる仕事があったので、わが社のような計量証明事業には元々興味がありました。それから自分は秋田の自然が好きなので、秋田の環境保全に貢献したいと思ったのがきっかけです。

Q 現在、ご担当されている業務はどのようなものですか。

A 自分が行っている業務内容は主に試料のサンプリングです。環境水、工場排水、土壌などをサンプリングして、それらを分析担当の部署に渡します。それからボイラーの排ガスや環境大気などの大気質に関しては、サンプリングから分析、報告書の作成まですべて自分で行っています。

Q 現在の仕事は大学で身につけたことが役に立っていますか。

A 大学での専攻と今の仕事は分野は違いますが、科学の基礎知識が必要不可欠なのは共通です。また、実験レポートや卒論などの形式は、今の仕事でお客様に提出する報告書の形式と似ているので、スムーズに仕事が覚えられたと思います。

Q 仕事での将来の目標、夢を教えてください。

A 最低でも3年は働いてみたいと業界のことはわからないとよく耳にしますが、自分は入社2年半にもかかわらず、この業界のことは分からないことだらけです。目標や夢というよりも、早く一人前になりたいという気持ちの方が強いです。

Q 県大での一番の思い出を教えてください。

A 仲間内でストリートダンスのサークルを立ち上げて、学祭や学外のイベントに参加したことです。そのときの仲間は今でも仲間ですし、活動を通じて多くの人と出会い多くの感動を得ることができました。機会があったら現在所属しているNCBというチームで県大でショーがしてみたいです。



株式会社秋田県分析化学センター（秋田市）
昭和47年に財団法人として発足。平成14年4月に環境問題に関連する業務の多様化に対応するために株式会社秋田県分析化学センターとして業務を開始。水質、大気質、土壌などの環境調査全般を行う。その他にも工場排水の分析や作業環境測定、騒音振動調査など幅広い業務展開をしている。

★生物資源科学部★ Bioresource Sciences

Mami Hanata

在校生

生物資源科学部 アグリビジネス学科

花田 真美 はなた・まみ

★出身県：秋田県 ★出身高校：大館国際情報学院高校
★学科・学年：アグリビジネス学科 4年



Q この大学、学部、学科を選んだ理由は？

A 県内就職に強いということから、県大を選びました。また、実家が兼業農家で、昔から農作業の手伝いなどをして、農業に興味があったことや、高校時に学んだ商業分野についても活かせると考え、アグリビジネス学科を選びました。

Q 印象に残っている研究、授業等は？

A 現在進行形なのですが、卒業研究に意欲的に取り組んでいます。私の研究では、調査先で聞き取り調査ということいろいろなお話を聞かせてもらうことが多いのですが、本当に面白い、ためになりますね。

Q ふるさとキャリア*「弟子入りチャレンジワーク」でどのような体験したのか、また、感じたこと勉強になったことを教えてください。

A 3年次の夏休み中に秋田県仙北市にある「株式会社わらび座」に弟子入りして、3週間、劇場・ビール工場・レストラン・農園などいろいろな部署を研修させていただきました。弟子入り前は不安でしたが、わらび座の皆さんの温かさのおかげで毎日楽しく意欲を持って仕事に取り組むことができました。

劇場の仕事の時に特に感じた点は、ちょっとした規則でも、1つのものを大勢で作り上げるためには、その規則1つ1つがとても大切な要素なんだということ。企業では、いかにその規則の意識の共有をできるかが重要なんだと感じました。

Q 将来の目標を教えてください。

A 将来の目標は、秋田を元気にすることです。秋田には農村がたくさんあるので、農村から秋田を元気にしていきたいと思っています。そのためにこれからも休日はボランティアに参加したり、たくさんの人と交流することに力を入れていきたいです。そして、遠い将来ですけど、農家民宿などを経営して、農村活性化への取り組みを主体的に選択していきたいです。

Q 将来を考えている先輩へ、メッセージやアドバイスをお願いします。

A 興味を持ったことや、やりたいと思ったことにはどんどん挑戦した方がいいと思います。いろいろな経験をすることで、豊かな人間性が創出し成長できると思います。貪欲に頑張ってください！

農村活性化へ積極的に取り組んで、秋田を元気にしたい！

*「ふるさとキャリア」とは、農業・農村及び地方社会の実態を把握するための新たな知識や技術の修得と、ふるさとへの貢献意欲を育てることを目的とした、学生のための職業教育プログラム。平成19年度文部科学省の現代GPに採択。



ふるさとキャリアでお世話になったわらび座にて

サークル紹介

劇団半円ぶたい

全く別の自分になれるのが楽しい！



毎年、精力的に公演を行っている「劇団半円ぶたい」。副部長の中川大地さん（生物環境科学科2年）に、演劇の魅力についてお話を聞きました。

Q 日頃の練習は？

A 平日の放課後に大学の講堂で劇中の基本動作、台本の読み合わせ、発声練習などを行っています。公演の1ヶ月前からは休日も劇の練習をしています。

Q サークルをやっていると良かった!と思ったことは？

A 「一つの劇を完成させる」という目標に向かってメンバー全員で協力し合い、作品を作り上げることで、仲間の存在や協力し合うことの必要性、メンバー全員をまとめ上げることの大切さを体感することができました。

Q 演じることの楽しさ、難しさを教えてください。

A 役を演じることで全く別の自分になれるので、新しい考え方や物事の見方を発見できるのがとても楽しいです。また観客席から舞台上の役者の視線など、小さな動きも見えてしまうため、片時も気を抜かずに演技を続けなければならないのが非常に大変です。

Q サークルのPRをお願いします。

A 私たち演劇部は、毎年4月、7月、10月、12月に公演を行っています。メンバー全員が力を合わせて、よりよい劇をつくろうと頑張っていますので、ぜひ私たちの公演へ足を運んでみてください。

サークル名 劇団半円ぶたい

創設年 2001年

現在部員数 14名

最近の公演記録

2009年10月 松風祭公演 「殺人事件の起こるまで」

2009年7月 新入生お披露目公演 「銀河旋律」

2009年4月 新入生歓迎公演 「箱～The box～」



機械知能システム学科 強度信頼性評価グループ



電子情報システム学科 計測制御通信システムグループ



研究内容

★環境電磁工学～電波の影響を受けにくい電子機器の開発

テレビやラジオ、携帯電話などさまざまなところで電波は利用されています。また、パソコンやゲーム機などの電子機器からも微量な電波がでています。これらの電波は他の電子機器に妨害を与え誤動作させることがあり、重大な事故が起こる可能性があります。たとえば、飛行機の離陸と着陸のとき、携帯電話など電波の出る電子機器の電源を切るように指示されますが、これは電子機器からの電波が飛行機の制御回路などを誤動作させる可能性があるからです。環境電磁工学とは、電波による電子機器への妨害の問題を防ぐために、電子機器から発生する電波を小さくしたり、さまざまな電波の中でも誤動作しない電子機器を設計・開発するための研究です。



出る電子機器の電源を切るように指示されますが、これは電子機器からの電波が飛行機の制御回路などを誤動作させる可能性があるからです。環境電磁工学とは、電波による電子機器への妨害の問題を防ぐために、電子機器から発生する電波を小さくしたり、さまざまな電波の中でも誤動作しない電子機器を設計・開発するための研究です。

TSUNAMI

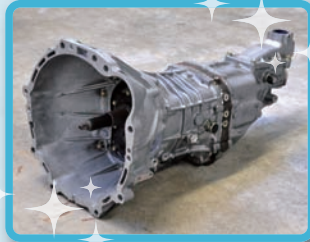
File 01

准教授
岡安 光博
Mitsuhiro Okayasu

研究内容

★高速連続鋳造プロセスの開発

鋳造技術は歴史的に古いことは周知のごとくです。それだけに鋳物技術は何か近代的なセンスに欠けるという誤った概念をもたれる可能性があります。鋳造技術は日本の工業技術の発展にともない進歩してきました。日本の鋳造技術は高いレベルをもち、世界をリードしています。過去、数十年の間に顕著な多数の研究成果が得られ、学問的にも体系付けられています。特に鋳造合金や金型材料の開発や鋳物の生産技術の発展は目覚ましく、ものづくりに欠かせないのが鋳造技術です。今後も日本はものづくり技術で世界リードすべきであり、貢献できるよう研究に励んでいます。特に現在では、高強度鋳物を開発するための新鋳造技術の開発に取り組んでいます。



01. 研究の楽しさ、やりがいとは？

研究は良い成果が得られるまで、数多くのアイデアと実験が必要のため、とても苦しいです。しかし研究成果が論文としてまとまり、国際ジャーナルで発表出来た時、達成感を強く感じることができます。また、指導している学生が素晴らしい研究を行った時、とても嬉しく、やりがいを感じます。

02. 学生時代の思い出は？

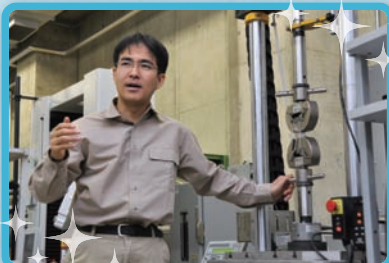
高専生時代に、毎日早朝から夜遅くまで、甲子園を目指し白球を必死で追いかけたことです。練習でも試合でも、仲間と共に、苦しみ、泣き、そして笑いました。これらの思い出は私の宝物です。

03. 県大の良いところを教えてください。

素直で真面目な学生と研究ができること、親切的な教職員が数多くいることです。皆さまに助けられながら仕事をさせていただいております。

04. 地域貢献として、どのようなことに取り組んでいますか。

専門分野の材料力学で企業との共同研究を進めていますが、「視覚障害者用のつえ」という異分野の研究も県視覚障害者福祉協会と協力して行っています。地面や段差を認識するセンサーをつねに取り付け、直接触れずに障害物を感知するのが特徴で、来年商品化を目指して開発を進めています。また11月下旬には、ゆり養護学校の生徒さんに科学の面白さを伝える実験教室を実施する予定です。



01. 今の研究に取り組むことになったきっかけは？

実は大学生の頃、電磁気学があまり得意でなかったため単位を落としてしまいました。その単位をとるために一生懸命勉強した結果、電磁気学の内容がよく理解できるようになり、その面白さに引かれて電波を取り扱う環境電磁工学の研究室に入ったのです。

02. 研究の楽しさ、やりがいとは？

研究は、現在まで誰も手をつけていない事の中から、自分が知りたいと思うテーマについて行きます。自分で目標を決め、仮定をたてて実験や計算によりその仮定を証明します。このとき、自分の考えが正しいことを示すことができたならば、非常にうれしいです。もし自分の考えと違う結論に至ったとしても、誰も知らない新しい知識を得ることができることであり、これも喜びとなります。このように新しいことを知ることができることが研究の楽しさであり、やりがいであると思います。

03. 地域貢献として、どのようなことに取り組んでいますか。

地域の電子機器を扱う企業や秋田大学、秋田産業技術総合研究センターと共同で「秋田21世紀エレクトロニクス応用研究会」という研究会を定期的に開いており、将来の秋田の電子機器産業の発展に協力しています。また、地域の子供たちに電気や電子回路に親しんでもらうために、毎年秋に小中学生を対象としたタイマーやラジオなどを作る電子工作教室をフェライト子ども科学館と共同で開催しています。



File 02

准教授
戸花 照雄
Teruo Tobana



File 03

助教
石川 匡子

Kyoko Ishikawa



INTERVIEW

研究内容

★天然素材との相乗効果を利用した新規低ナトリウム調味塩の開発



塩は私たちの生活に不可欠なものです。一方で塩分の取りすぎは生活習慣病の一因であるとされ、予防のために減塩が薦められています。しかし、塩は料理において塩味をつけるだけでなく、うま味など他の味を引き立たせる作用もあり、減塩は料理のおいしさを損なうことにもなります。そこで、食塩摂取量を気にせず使用できるような、低ナトリウムで塩味と嗜好性に優れた調味塩の開発が必要ではないかと考え、研究に取り組んでいます。塩味と他の味が引き起こす相乗効果を利用する方法を用いていますが、特に少量の酸味の添加は塩味増強に有効であり、現在は味物質にも県産食材を用いて試作しています。

01. 研究の楽しさ、やりがいとは？

塩の研究を始めた時は、この分野の研究をしている人が少なく、ゼロからのスタートでした。研究が進むにつれて、他の研究機関や業界の方々からアドバイスしていただけるようになり、自分の考えていた側面とは別の側面へも研究が広がっていきなりました。多分、この研究をしていなければ知り合うことができなかったんだと思うと、もっとがんばろうと励みになります。

02. 学生時代の思い出は？

ちょうど就職難の時代でしたので、かなり苦労をしました。その時に先生から「辛い時に辛いという顔をするのは当たり前のこと。でも、そんな時こそ笑顔でがんばってれば、いつかきっとその努力に気がついて認めてくれる人が現れるはず。だから君は辛い時こそ笑顔でいられる人になりなさい。」という言葉がかけられました。当時の私にとってこの言葉ほど励みになったものはありませんでした。今でも何かある度に思い出しています。

03. 地域貢献として、どのようなことに取り組んでいますか。

秋田県は食塩摂取量が多く、生活習慣病患者、高齢者も多いという状況にあり、減塩推進が課題ですが、残念ながら十分に浸透しているとはいえません。この研究を通して、料理の塩味やおいしさを保ち、塩分摂取量だけを改善できるようになれば、秋田県民の減塩ならびに健康増進へとつながっていくと考えています。また、この研究で県内産の素材を利用した新しい“秋田ブランド”商品を作ることを目標としています。現在は、三種町産の梅を使って塩に添加する素材を作製中で、県の研究所や地元企業組合の皆さんと一緒に、試行錯誤しながら商品開発に取り組んでいます。



研究内容

★ジベレリン(※)処理を多面的に活用したヤマノイモの画期的な生産技術の開発

むかごの着生は新芋の肥大を抑制し、さらに圃場に落ちると萌芽し、雑草化するため、ヤマノイモの栽培管理上邪魔な存在です。そこで、その解決を目指し研究したところ、ジベレリン処理すると、むかごの着生を抑制し、新芋の肥大が促進できるという画期的な成果を得ました。現在、この生産技術の実用化に向けて、圃場レベルで最適なジベレリン処理方法を開発するため、本学を中心に青森県、秋田県および愛知県の農業試験場、東北大学およびジベレリン販売メーカーが関わった研究体制で進めています。なお、本研究は「平成21年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」に採択されました。



01. 現在の研究は社会でどのように役立ちますか？

現在の研究は、全国のヤマノイモの収量増加(2~3割増)に貢献できるものと期待しています。試算上は、ナガイモ(約5,400ha)への波及効果として、32~36億円(10a当たり約6~7万円)の増収益を見込んでいます。あくまで試算上の結果ですが、この夢に向かって日々邁進しています。

02. 研究の楽しさ、やりがいとは？

研究とは、日々期待と不安のなかで研究計画を練り、それを遂行するという同じことの繰り返しです。この繰り返しが研究であり、それしか研究を進めることはできません。しかし、そのような地道な進みのなかに、突然、はっとするような成果が得られるものです。このときの感動が研究の楽しさであり、やりがいなのかもしれません。

03. 地域貢献として、どのようなことに取り組んでいますか。

秋田県には実質日本一のツクネイモ(ヤマノイモの3つある品種群の一つ)産地があります。しかしながら、収量増加や作業の軽労化など現場からの要望は多く、特に、ヤマノイモの生産体系そのものも未完成であるため、改善できる可能性を秘めています。ですが、研究事例や取り組む研究者の数が限られている現状もあります。そこで、この日本有数の産地を発展させたいと、実用的な技術開発を目指して研究しています。順調にいけば生産現場へ還元できる生産技術に成り得ると確信しています。



※ジベレリンとは、伸長成長の促進、種子の発芽や開花の促進、老化の抑制などに関わるある種の植物ホルモンの総称。

File 04

准教授
吉田 康徳

Yasunori Yoshida

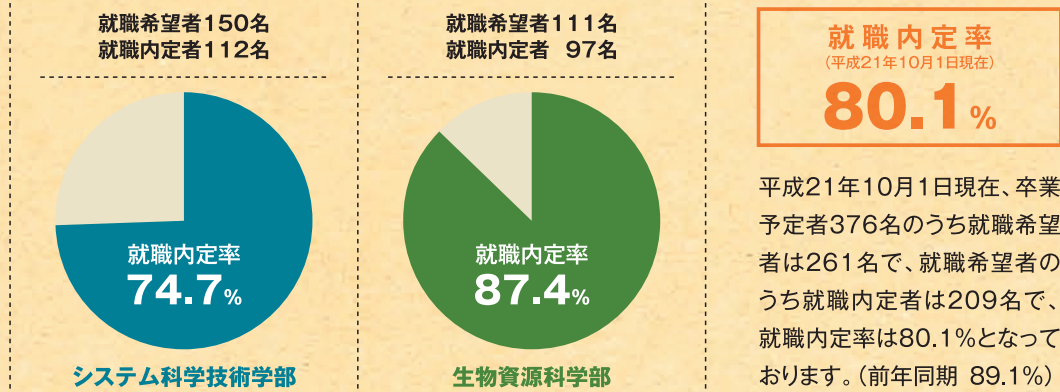


「イスナ」は、秋田弁で「良いですね」という意味。
 人材育成・研究開発を通して、地域社会の発展のために
 「良い」ことを発信していきたいという願いを込めています。
 これからも応援よろしくお願いします。



就職内定速報 (平成21年10月1日現在)

★平成22年3月卒業予定者(第8期生)の就職内定状況



緊急経済支援制度について

秋田県立大学では、教育ローン利子補給制度に続き、今回新たに、昨今の景気悪化より学生とその家族の家計事情が急変しても、学生が安心して学業を続けられる制度を設けました。

●授業料の減免・分割徴収・徴収猶予制度

納入期日(前期:4月30日、後期:10月31日)までの授業料納付が難しい場合、4月と10月の年2回申請できる制度です。学資負担者の死亡や罹災、経済的困窮など相当の理由を記載した申請書に必要な公的書類を添付し申請すると、前年度所得額に基づく審査の結果、授業料の全額または半額の免除や数回に分けての納付、または納入期日の変更が認められることがあります。

特に、今年度からは新しい基準を設けました。学資負担者の失業等により大幅に収入が減じたなど、今年に入ってから家計事情が急変した学生の相談に応じ、今年の所得額に基づいて審査する弾力的な対応ができるようにしました。

開学10周年記念 募金事業

秋田県立大学は平成21年6月5日に開学10周年を迎えました。
これを記念しまして、募金事業を進めています。

【目的】

1. 秋田県内出身者を経済支援するための独自奨学金制度の創出
2. 交流協定締結海外大学との学術交流・就学生交換の促進

【募金目標額】1億円

【事業期間】平成22年3月31日まで

●募金趣意書・振込(払込)用紙をご希望の方は、下記まで住所・氏名・電話番号をお知らせください。

地域連携・研究推進センター

担当:進藤、渡辺 TEL.018-872-1557 E-mail chicken@akita-pu.ac.jp



<http://www.akita-pu.ac.jp/>

E-Mail: koho_akita@akita-pu.ac.jp

【秋田キャンパス】●本部・生物資源科学部 ●大学院/生物資源科学研究科
〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西 241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670

【本荘キャンパス】●システム科学技術学部 ●大学院/システム科学技術研究科
〒015-0055 由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180

【大湯キャンパス】●生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)
〒010-0444 南秋田郡大湯村字南 2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377

【木材高度加工研究所】
〒016-0876 能代市字海詠坂 11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924

